

大学連携によるコミュニティ施設の運営

1. 団地・住宅地の概要

男山団地（京都府八幡市）

【種別】：賃貸・分譲/集合住宅団地

【住戸数】：約 6,500 戸 【入居開始年度】：1972 年～

【交通】：京阪本線「樟葉駅」 バス8分 など

2. 取組の概要

- 京都府立会いの下、関西大学、UR都市機構、八幡市の三者で、2013年に男山地域のまちづくりに関する連携協定を締結した。
- 団地の商店街の空き店舗に、住民が気軽に集まれる場所、団地や地域の将来について話し合える場所となるコミュニティ拠点を2013年に開設した。

3. 取組の背景

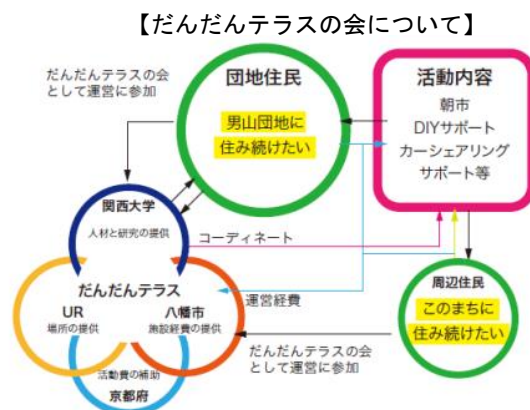
- 男山団地は、入居開始から40年以上が経過し、少子高齢化の進行や地域コミュニティの希薄化が課題となっているとともに、団地再生の方向性について課題があったことを契機に関係者間での協議が始まった。
- 男山団地は、市の人口・世帯数の約3割を占めており、市全体の活性化につながる重要な地域であることから、市の住宅マスタープラン等においても男山団地の再生が重要な課題として位置付けられていた。

4. 特徴

- 関西大学、UR都市機構、京都府、八幡市での連携の下、UR都市機構が所有する空き店舗を、団地を含む地域の活性化のための活動拠点としている。
- 大学生が拠点に常駐し、活動の企画・運営の中核として関わることで、地域のコミュニティ活動を活発化させるとともに、住民の地域活動への参加を促進している。
- 拠点を中心として、コミュニティ活動のほか、まちづくりについて考える会議の開催やDIYサポートなど、まちづくりや住戸機能の改善にも取り組んでいる。

5. 組織体制

- 任意団体である「だんだんテラスの会」が運営組織（2013年設立）
【「だんだんテラスの会」メンバー】
自治会、商店会、京都府、八幡市、UR都市機構、住民・大学生等
- 日々の運営は、大学生が中心となり住民と協働しながら担っている。



（出典）：第4回男山地域まちづくり連携協定年次報告会資料/八幡市

6. 取組内容

- 協定に基づく取組の一つとして、コミュニティ拠点となる「だんだんテラス」を開設した。
- 大学生が中心となって、365日オープンの拠点として、住民と意見交換をしながら、多様な活動の企画を立案し、実施している。
- 多様な主体との協働関係の構築や取組のマネジメントを行う、京都府「まちの公共員」が2014年に配置され、コーディネーターとして現在も継続的に配置している。
- 取組内容：
 - ラジオ体操
 - 朝市（週3回、地元農家の野菜を販売）
 - 住民による教室や歴史講座
 - ファミリー向けの体験型ワークショップ（親子ヨガや工作など）
 - 建築士会と連携した住まいの相談会
 - オレンジカフェ※への場の提供
※初期・軽度の認知症高齢者と家族が集い、情報交換やレクリエーションを行う場。地域包括ケアセンターの職員が相談対応を行う。
 - 住民主体のまちづくり活動の場「男山やってみよう会議」の開催

- だんだんラボ[※]の運営、DIY サポート
 - ※セルフリノベーションの促進やものづくりによる交流拠点として 2018 年に開設。DIY サポート等を実施している。
 - 地域の情報発信（「だんだん通信」の発行）等
- 「だんだんテラス」の利用人数：約 9,000 人[※]
1 日の平均利用者数約 25 人
（※直近 3 年間の平均年間利用者数）

【だんだんテラスの様子】



（出典）：UR 都市機構 HP



（出典）：UR 都市機構 HP



（出典）：無印良品の家 HP